

古墳に眠る肝属の王 —塚崎古墳群の時代—

肝付町歴史民俗資料館 特別展 資料（2007年7月12日～9月10日）

塚崎古墳群を知っていますか？

みなさんは塚崎古墳群を知っていますか。

塚崎古墳群は鹿児島県大隅地域、肝属郡肝付町野崎にあります。ここには、前方後円墳や円墳という「古墳」とよんでいる昔の人のお墓がたくさん作られています。現状で40数基が確認できますが、今は痕跡も残っていないものがありますので、本来はもっとたくさんの古墳が作られていたと考えられます。

このお墓、古墳が作られた時代は、「古墳時代」と呼ばれています。それはだいたい西暦の200年代半ばから600年ころまでの時代です。塚崎古墳群が造られたのはとくに西暦300年代から400年代を中心とするようです。

この時代を代表する古墳は前方後円墳というかたちのものですが、塚崎古墳群は日本最南端の前方後円墳がある古墳群です。すこし、この時代がどんな時代かご紹介しましょう。

古墳とは？

古墳時代には、私たちが今、前方後円墳と呼んでいる丸い墳丘と四角い墳丘を合体させた奇妙なかたちをした巨大な墓が日本列島の広い範囲で盛んに造られていました。そのもっとも大きなものは大阪府堺市の大山古墳または仁徳天皇陵古墳とも呼ばれるものです。

この古墳づくりには多くの人の労働力が必要です。ですから、これらは各地域でも、富や権力を握った有力者が造らせた墓だと考えられます。なかには、王と呼ぶべき、その地域で最大の権力者も前方後円墳に葬られたと考えられます。この時代には鹿児島県でも大型の前方後円墳が造られました。

それは大隅の志布志湾岸・肝属平野周辺の地域です。そしてこの地域が前方後円墳の造られた最南端の地域です。鹿児島県ではこの地域以外に前方後円墳は造られていません。また、大隅地域には大型の古墳とともに、地下式横穴墓という墓がおなじく5世紀頃（西暦400年代）を中心に盛んに造られます。地下式横穴墓とは地面から堅穴を掘り、さらに堅穴の下方から横方向に埋葬空間の横穴（玄室）を掘り抜くこの地域の独自の埋葬形態です。

古墳時代は前方後円墳を中心に古墳を造ることで有力者たちの身分や勢力などの社会的関係を表した時代だと考えられています。また前方後円墳を中心とする古墳は鹿児島から岩手まで分布し、全国的な社会的結びつき・秩序が形成される過程を表すものだと考えられています。

そのため、古墳は日本列島の広い地域に社会的な共通圏ができあがる古代の国家が出現する過程を考える上で重要な資料だと考えられています。とくに、大隅の古墳はその分布の南限域であることから、各地域の側では古墳を造ることによるような意義があったのかを考える重要なフィールドだといえます。



曾於郡大崎町 横瀬古墳